

ロシアの「併合」

計られぬ民意の捏造だ

捏造された「民意」をたてに、大國が歴の國の領土を力強くでもねじる。もとや茶番通り越し、國際秩序の破壊行為といふべき進行だ。

ロシアのプーチン大統領が、軍で占領を進め、またウクライナ東部と南部の4州を自國領に併合するも一方的に宣誓した。根拠とするのが、4州で85%が併合に賛成したとされる「住民投票」だ。プーチン氏は演説で「人の選択は行われた」と述べ、国連憲章が掲げる「自決の原則」並び特權行使の正当化した。

多くの住民が戦火を逃れたり、迫害の恐怖にねじえたりする中での投票結果のふしが民意の詐しなのか。現地からは、係員が重武装した兵士と警官を回つて票を回収したとも伝えられた。グテーレス国連事務総長が「国連の目的と原則への侮辱」を形容した通りの事態だ。

4州の併合は、東部2州の住民を「集団殺害からやむ」と根拠なく強弁した侵攻直前のロシアの立場とも矛盾する。

プーチン氏は演説で、米国は「西側が力でロシアと価値観を押しつけ、弱体化させよう」とし、抗心もむき出した。その活動は、ウクライナを破壊し、住民の命を奪い、隣國国家を作り替えるようとしている自分自身となねかえるものと悟るべきた。

ロシアの偉大さを説きながら、逆に國際慣用を擅ね、隣国をめどと西側に迫り来る。自國に偏の歴史を刻印したプーチン氏の責任は重い。

なりふり構わぬ強硬姿勢は弱みと焦りの裏返しでもある。

ウクライナ東部で大敗走を喫するなど、守勢に立たざれていり抜く。その明確な意思で結束し、プーチン政権の暴走を食い止める。日本を含む各國がライナへの軍事支援をためらわせる狙いがあるのだ。

加えて8年前のクリミア併合を再現して愛國心発揚も期待しているならば、自算は外れたといいべきだ。兵力不足を補う予備役の部分動員は国内に大きな混乱と不安を広げ、支持率は開戦後初めて下落に転じた。

国际規範とのこれほどまでの齟齬を放置すれば、力が支配する弱肉強食の時代に戻りかねない。にもかかわらず、併合宣言を受けて開かれた国連安全保障理事会はロシア非難の決議案を採択できなかつた。

ロシアの拒否権行使は想定内を外すと西側に迫り来る。自國棄権したのは理解と苦しむ。主権の一体性は自國どりでも現実的な問題だからだ。